

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

保存期慢性腎臓病患者の動脈硬化指標に関連する因子の調査

2. 研究責任者(当院)

所属：リハビリテーション室

氏名：大野隼汰

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：なし

3. 分担研究者

所属：腎臓内科

氏名：藤井隆之

所属：リハビリテーション室

氏名：加藤木丈英、田畑吾樹、三嶽侑哉、

4. 研究対象者

2020 年 07 月 01 日～2026 年 06 月 30 日の間に、聖隷佐倉市民病院において、慢性腎臓病の教育目的で入院した患者

5. 研究の必要性

本邦において、近年増加傾向であり国民の約 8 人に 1 人が罹患するとされる慢性腎臓病（chronic kidney disease：CKD）は、様々な合併症のリスクが高く、特に心血管疾患（cardiovascular disease: CVD）の発症は、健常者と比較し 2.3 倍と報告されている。よって、CKD 患者の動脈硬化の予防のため包括的かつ有効な集学的な支援を行なうことが重要である。

近年、動脈硬化に関連する要因として、骨格筋量や身体機能、及びそれらの性差が注目されている。先行研究では、CKD 患者は、慢性炎症や栄養障害など、骨格筋量の低下に繋がる複雑な病態を有しており、保存期の段階から骨格筋量が低下しやすいことが明らかとなっている。さらに、先行研究では、動脈硬化の要因には性差の影響を受ける可能性が報告されており、性差を考慮した検討が必要である。しかしながら、透析前の保存期 CKD 患者を対象として、動脈硬化に関連する因子を、身体機能や骨格筋量も含めて十分に検討されていない。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

後ろ向きコホート研究であり、日常診療にて収集した情報のみを使用するため、本研究によって生じる個人への影響はないと考えられます。今回の検討により医学上の貢献の予測としては、身体機能の評価を行うことで、転倒や入院等の予後予測につながることで、早期にリスクが高い患者を抽出でき他職種で予防に取り組むことが可能となると考えられる。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）

担当者氏名：大野隼汰

対応時間：8:30－17:00